

「 $1 + 1 = ?$ 」大学での勉強の仕方について依頼を受けまして、はじめに思いついたものが、これです。

$1 + 1 = 2$ の答えは当然2です。簡単なことですが、小学校、中学校、高校までの勉強は、正解は一つだけが多かったと思います。高校受験や大学受験などでは、いかに早く、いかに正確に、答えをたくさん記入することを求められてきたと思います。そのために、いろいろな問題を何度も解いたり、暗記したりしてきました。

大学でも、おなじ？ もちろん、暗記が必要な科目もたくさんあります。

大学で違うのは、自分で考えて、自分なりの解答を出す、授業が多くなることです。

なぜ、そんなことが必要？

大学の後は、理系では大学院に進む人が多いですが、文系では多くの方が民間企業などに就職しています。民間企業ではどのような能力が必要なのでしょう。私の少ない経験では、いろいろな問題を処理し、変化する状況に対応できる能力です。

この春、高崎経済大学に赴任するまで何回か転職を

しております。いくつかの民間企業での経験から思った事です。

単純に正解を出すだけでしたらコンピュータの方が早いです。情報を検索するだけでしたら、データベースやネットワークの方が早く正確です。

では、どういう能力が求められているのでしょうか。

企業活動にしろ、その他の公共団体でも、人間対人間が行う活動ですので、いろいろなトラブルや障害が発生いたします。

例えば、不良品、事故、未払い、記録の喪失、過請求などなど、毎日のように新聞やテレビでは事故や、事件を報道しています。報道されるような大きな事件ではなくても、人が活動する場合は、思い違い、勘違い、連絡ミスなど小さなトラブルもあります。

そのような中で人はその状況に応じて、対応をしなければなりません。または、事故やトラブルが起こらないように、未然に対策をする必要もあります。それには、 $1 + 1 = 2$ という、単純な答えを出すだけではなく、持っている知識や技能を生かし瞬時に応用していく必要があります。

1 + 1 = ?

小中高と大学の違い

久宗 周二



写真はアメリカ、ワシントン州、シアトル水族館にて

SYUJI HISAMINE

高崎経済大学卒、日本大学大学院生産工学研究科修士、博士(水産科学) 北海道大学教授。最近の興味あるテーマは、組織人間工学及び産業・組織心理学的視点から社会・組織・環境の最適化と、製品などへの応用を考える。

そのためには、日頃から自分で考えて、まとめる力が必要になってきます。

大学の授業にはそのようなスキルを向上させる、さまざまな授業が多角的にあります。

特に、高崎経済大学は「少数精鋭」教育を謳い、特に2年生の後期の基礎演習から配当されるゼミナールでは、週に1回以上、先生とゼミの学生が、いろいろなテーマに関して真剣に議論し合い、切磋琢磨します。初めのうちは、「せっかく自分で調べてきたことなのにうまく発表できない」、「自分の考えが足りなかった」など反省することも多々あります。先生や先輩のゼミ学生から厳しい指摘も受けるが、暖かい励ましの言葉をかけてもらうことがあります。真剣に議論をした後の一杯がとてもおいしく感じるでしょう。

そのほか、ゼミでの合宿や現場での調査など、そのときは大変だとか、つらいとか思ったことでも、後になると欠かすことのできないいい思い出になっています。

私自身の経験として、そのとき語り合ったゼミナールの先生や、先輩方とは二十年たったいまでも、つきあっています。

そのほか、部活やサークル、同じ下宿の人たちとも、語り合っていた経験ができました。

高崎経済大学は、地元の群馬県ばかりではなく、全国各地からたくさんの学生が集まってきます。高崎の市街地から少し離れているため、大学周辺に学生の多くが下宿しています。いろいろな機会です学生同士がふれあい、人間形成がされていきます。

出身や、考え方が異なる学生が全国各地から集まり、時には競い、時には励まし合い、そのような活動の中で、親や家族に守られてきた小学校、中学校、高校時代から、自立した社会人に向かうための、力を大学生生活に蓄えられたのだと、いま振り返ると実感しています。

大学では、様々な授業を受けて、いろいろな考え方を身につけて、将来の蓄えにしてください。

スタートダッシュ・オン・キャンパス
Start dash on campus